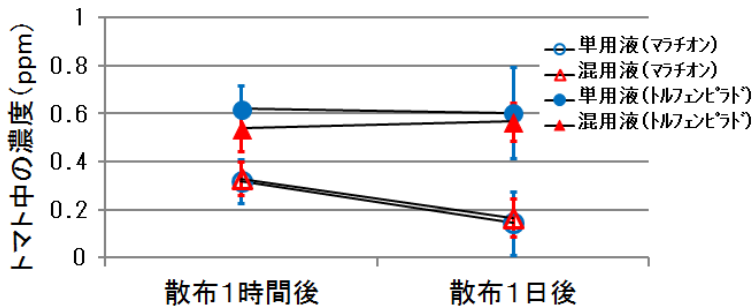


## 農薬の混用散布とトマト、ナスの農薬残留

農薬の混用散布は、作物への薬害と病害虫への効果を確認して行われていますが、農薬残留への影響についてはあまり知見がありません。

そこで、トマト、ナスについて、いくつかの代表的な農薬の組み合わせによる混用散布を行い、作物残留濃度を調べました。

その結果、今回の農薬の組み合わせでは、混用散布により作物残留基準に影響する大きな濃度変化は認められず、問題ありませんでした。

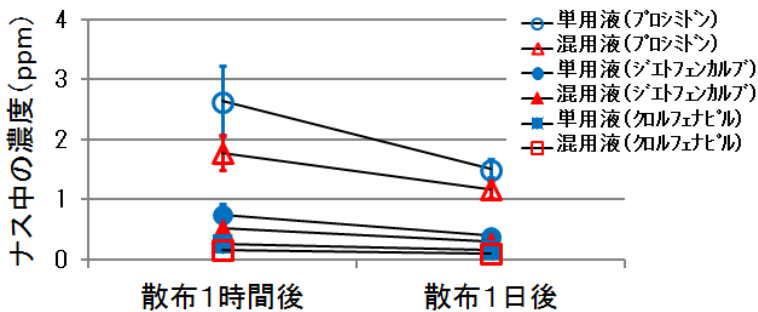


### トマト残留基準値

マラチオン 0.5 ppm  
トルフェンピラド 2 ppm

### 【マラソン乳剤※とハチハチ乳剤※※の混用散布におけるトマトの残留濃度】

※有効成分：マラチオン ※※有効成分：トルフェンピラド



### ナス残留基準値

プロシミドン 5 ppm  
ジエトフェンカルブ 5 ppm  
クロルフェナピル 1 ppm

### 【スミブレンド水和剤※とコテツフロアブル※※の混用散布におけるナスの残留濃度】

※有効成分：ジエトフェンカルブ・プロシミドン ※※有効成分：クロルフェナピル

作物	農薬(商品名)組み合わせ
トマト	アルバリン顆粒水溶剤とロブラール水和剤 ベストガード水溶剤とロブラール水和剤 マラソン乳剤とハチハチ乳剤
ナス	スミブレンド水和剤とコテツフロアブル マラソン乳剤とハチハチ乳剤

今回調べたこれらの組み合わせでは、混用による大きな残留濃度の変化はみられないことがわかりました。

過去に実施した試験で、ネギなどでは農薬の混用により作物残留濃度に変化が見られた事例があり(残留基準値には問題ない値)、作物や農薬組み合わせにより残留濃度が変化する可能性があるため注意が必要です。混用の際には、農薬メーカーや農業団体が作成した農薬混用適否表を参考にして、効果や薬害に問題のないことを確認しましょう。

(農林総合研究センター 農産物安全・土壌担当 TEL 0480-21-2091)